

リスト＝菊地裕介編／５台ピアノによる「ラ・カンパネラ」、菊地裕介編／ビゼーの「カルメンによる５台のためのファンタジー」
左から、青柳晋＋白水芳枝＋藤井隆史＋松本愛＋菊地裕介

日本演奏連盟 第21回クラシックフェスティバル
ピアノ誕生300年記念

09・5・8 東京文化会館

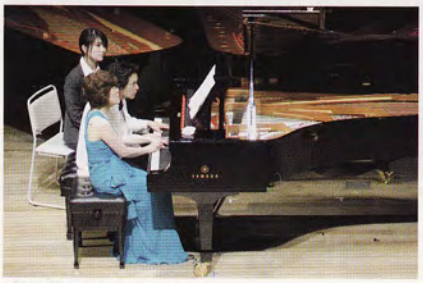
文――編集部 写真提供――日本演奏連盟



藤井隆史＋白水芳枝



曽根麻矢子



伊藤恵＋青柳晋



田部京子



若林顕＋菊地裕介



清水和音



ガーシュウィン／森山智宏編／5台ピアノによる「ラプソディ・イン・ブルー」
左から清水和音＋伊藤恵＋若林顕＋田部京子＋迫昭嘉（指揮も）

（社）日本演奏連盟が、1989年以来開催してきた「クラシックフェスティバル」は、今年で21回目を迎えるロング企画となっているが、毎回ユニークなテーマと豪華なアーティストたちにより、密度の濃いイベントとして知られている。

今年はイタリアでピアノの前身が誕生して300年の記念の年に当る。それに因み「ピアノ生誕300年記念」と銘打ち、日本演奏連盟の会員によるソロ、デュオ、そしてアンサンブルとヴァラエティに富んだ魅力的なプログラミングが組まれた。

前半はチェンバロの曽根麻矢子によるスカルラッティに始まり、青柳晋のモーツァルト、若林顕のベートーヴェン、田部京子のシューベルト、迫昭嘉のショパン、伊藤恵のシューマン、清水和音のラフマニノフとピアノ音楽の歴史をソロ演奏で辿る。後半は連弾曲が並ぶ。まず藤井隆史&白水芳枝でブラームス／大学祝典序曲、伊藤恵&青柳晋でドビュッシー＝ラヴェル編の「牧神の午後への前奏曲」、若林顕&菊地裕介で2台ピアノによる「ラ・ヴァルス」、そして圧巻は5台ピアノによるリスト＝菊地裕介編曲「ラ・カンパネラ」に、同じく菊地編の「カルメン」ファンタジー、更に、ガーシュイン＝森山智宏編「ラプソディ・イン・ブルー」。編曲の妙も相まって、華やかな音響の渦が会場を駆け巡った。超満員の聴衆もピアノの世界に満喫したことであろう。

Japan Federation of Musicians　Classic Festival the 21st

A Celebration of 300 Years of the Piano



出演者一同